



イスラーム過激派：「イスラーム国」が日本人2名の処刑を予告 #2

2015年1月20日に「イスラーム国」が日本人2名の処刑を予告する映像を発表した際、「日本の十字軍参加」についての言及があり、これが「イスラーム国」が従来は敵視していなかった日本を敵視する方針に転じたかのように解釈された。これまでのイスラーム過激派の日本に対する主な攻撃・言及事例は以下の通り。

時期	個人・団体名	概要
2001年	ウサーマ・ビン・ラーディン	日本はなぜユダヤの側に与するのか、という問いかけの形で言及。
2003年	ウサーマ・ビン・ラーディン	(イラクに対する)不正な戦争の参加者として言及。
2004年	ウサーマ・ビン・ラーディン	欧米諸国の国民や国連要員と並んで日本人の殺害に懸賞金をかける。
2004年	アイマン・ザワーヒリー	欧米諸国と並んで日本権益を攻撃対象として例示。
2004年	二大河の国のアル=カーイダ (注:「イスラーム国」の前身)	香田証生の誘拐・斬首についての声明の中で「十字軍と同盟する日本」として言及。
2005年	アンサール・イスラーム	斉藤昭彦の殺害について「十字軍遠征でアメリカ軍を助ける者全ての運命」と言及。
2008年	アイマン・ザワーヒリー	掲示板サイトを通じて募集した質問への回答で「日本は援助と称するものを十字軍同盟の旗の下で占領軍に提供し・・・(日本は)十字軍遠征の参加者」と指摘。
2010年	アブドッラー・アッザーム部隊	ホルムズ海峡での日本企業所属のタンカー爆破事件を「世界的不信仰体制」に対する攻撃と主張。
2015年	「イスラーム国」	日本人2名の処刑予告の中で「十字軍に参加した」と非難。

評価

イスラーム過激派にとって、十字軍はイスラーム共同体のを侵略・搾取し、ムスリムに苦境を強いる諸悪の根源としての欧米諸国、キリスト教圏を指して用いられる。しかし、イスラーム過激派全体、そして前身組織を含む「イスラーム国」の活動歴には、実は日本を十字軍、或

いはその陣営の一員として言及したり、攻撃したり、攻撃対象として例示したりする事例は過去にも多数見られる。それらからは、「イスラーム国」やイスラーム過激派が2015年1月に突如日本に対する認識を変更して敵視に転じたわけでも、これまで日本がイスラーム過激派に敵視される理由がないわけでも、イスラーム過激派による日本敵視が何かの誤解に基づいているわけでもないことが示されている。

むしろ、イスラーム過激派による「敵認定」や「攻撃対象の範囲設定」は、イスラーム過激派やその活動家を取り巻く周囲の環境や、その時々政治・軍事情勢によって変化するものと考えべきである。すなわち、ある時期敵視されていたものが、別の時期には全く関心を向けられないこともあれば、攻撃対象として例示されても実際には何の脅威も生じない場合もありうる。日本について個別に考察すれば、アメリカ軍のアフガン侵攻、イラク戦争、報道機関からの問いかけ、「イスラーム国」対策などのできごとに応じて、敵意や関心が高まる傾向があるが、特に話題がなければ敵意や関心は低下する。こうした傾向は、アメリカ、イギリス、フランスなど、イスラーム過激派にとって「絶対的な敵対者」に当たる対象以外の国や機関全般に当てはまる傾向である。

(イスラーム過激派モニター班)

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

◎各種情報、お問い合わせは中東調査会 HP をご覧下さい。URL : <http://www.meij.or.jp/>